

プロセス2 意識を高める(学ぶ)

【行動計画P. 5～7】

項目	事業名	担当課	(1)令和7年度実施状況				(2)目標指標の状況		
			取組内容	協働の相手	事業の評価	効果、理由(問題点)	基準値 (R3)	目標値 (R9)	現状値 (R7)
				①～⑦					
(1)情報交換の「場」をつくる	地域活動・市民活動交流会	市民協働推進課	市民活動センターにおける以下の事業において、参加した方と市民活動団体との交流の機会を作ることができた。 うるるトーク、若者の社会参加促進事業、うるるフェスタ、スキルアップ事業、協働のつどい	①②③④⑤⑥⑦	A	効果 登録団体と協働した事業を開催できた。 問題点 市民活動を活性化させるため、連携した活動につながる交流の場を作る事業を実施していく必要がある。	交流会参加者数 157人	交流会参加者数 200人	交流会参加者数 2,055人
	市民活動センターの運営	市民協働推進課	うるるのまちポスターコンクールを実施し市民活動センターの存在や愛称うるるの浸透を目指し利用促進を図った。	①②③④⑤	A	効果 ポスターコンクールの一般投票をなすしおばらまなび博覧会で実施し、若い世代に周知することができた。	センター利用者数 1,774人	センター利用者数 3,000人	センター利用者数 3,174人
	結婚サポートセンターの設置運営	市民協働推進課	結婚サポートセンターの運営と、縁結び事業・とちぎ結婚支援事業の実施。	①⑦	A	縁結び事業から1組、とちぎ結婚支援センター那須塩原から11組成婚があった。	サポーター会議の実施実施	サポーター会議の実施充実	サポーター会議の実施充実
	消費生活と環境展→消費生活展とうるる協働のつどい	交通防犯課	2025年度那須塩原市「消費生+A6+D9	②	C	【効果】 「うるる協働のつどい」を同会場で行うことで、幅広い層にエシカル消費について触れもらうことができた。 【課題】 ・前回出展した団体に出展依頼をしているため出展内容のマンネリ化と参加者の高齢化が進んでいる。 ・エシカル消費について、周知を行うことができた一方で、エシカル消費の認知度が低い層には来場のきっかけとすることができず、エシカル消費講演会であまり人を集められなかった。	来場者数 540人	来場者数 594人	来場者数 358人

プロセス2 意識を高める(学ぶ)

【行動計画P. 5～7】

項目	事業名	担当課	(1)令和7年度実施状況				(2)目標指標の状況		
			取組内容	協働の相手	事業の評価	効果、理由(問題点)	基準値 (R3)	目標値 (R9)	現状値 (R7)
				①～⑦					
(1)情報交換の「場」をつくる	なすしおばらまなび博覧会	生涯学習課	宇都宮共和大学那須キャンパスを会場に、2日間実施。	①②⑤⑥	A	効果 小・中・義務教育学校児童生徒作品展、社会教育施設の事業紹介、日本遺産展示、文化協会作品展、まなびの体験コーナー、郷土芸能発表会、飲食ブースなど様々な催しを行い、生涯学習の振興につながった。	満足度 未実施	満足度 68%	満足度 84%
	貸館による市民活動支援	公民館	貸館件数は26,383件、利用者数は329,105人であった。また、オンライン予約システム導入により貸館の利便性向上を図った。	①②③④⑤⑥⑦	B	新型コロナウイルス感染症の分類が5類に引き下げられて以降、コロナ禍前の市民活動に戻ってきている。しかしながら、コロナ禍を転機に活動廃止した団体などもあったり利用者数を増やす課題は残る。	公民館施設 利用者数 144千人	公民館施設 利用者数 420千人	公民館施設 利用者数 329千人
	家庭教育支援事業	公民館	全ての公民館において、各地区内の親子を対象とした家庭教育に関する講座の開催するなど、各公民館に配置している社会教育指導員が中心となり様々な事業を展開できた。	①⑤⑦	B	課題として、多くの参加者を募るため、情報提供や募集方法を効果的に行うことが必要である。	参加者数 4,584人	参加者数 10,000人	参加者数 6,013人
	ひよこの会(託児ボランティアの活用)	三島公民館	参加対象および定員を講座初回時(6月)に1歳以上の未就園乳幼児を持つ市内在住の親子15組とし、全12回の講座(育児学習・親子活動・観劇・ミニコンサート・ものづくり)を実施した。	②⑦	C	地域の保母ボランティアグループを利用したことで、親だけで学習する回を複数回設定し、幼児を持つ保護者に必要な学習機会と親睦の場を提供することが出来た。ミニコンサートに関してはひよこの会に参加していない親子にも事前申込を行うことで参加を可能とした。	延べ参加者数 200人	延べ参加者数 400人	延べ参加者数 288人

プロセス2 意識を高める(学ぶ)

【行動計画P. 5～7】

項目	事業名	担当課	(1)令和7年度実施状況				(2)目標指標の状況		
			取組内容	協働の相手	事業の評価	効果、理由(問題点)	基準値 (R3)	目標値 (R9)	現状値 (R7)
				①～⑦					
(2)「協働」を体験する仕組みをつくる	協働事例集の作成・配布	市民協働推進課	・市民活動センターを介した協働の事例をFacebook・Instagramで紹介した。 ・市民提案型協働のまちづくり支援事業補助金を活用した団体による、広く市民に向けた活動報告会を開催した。	①②③④⑤ ⑥⑦	A	効果 協働のまちづくりに取り組む事例を広く知ってもらうことができた。 問題点 情報の更新頻度を上げるなど閲覧回数を増加させる工夫が必要。	事例紹介件数 -	事例紹介件数 7件	事例紹介件数 8件
(3)人材を活用する仕組みをつくる	各種審議会等委員への市民の登用	市民協働推進課	審議会・委員会等における公募による委員数66名	①	A	公募制度により、一定数の市民を登用できた。	市民登用人数 50人	市民登用人数 60人	市民登用人数 66人
	女性の人材登録制度	市民協働推進課	登録者数:16名(令和8年3月31日時点)	①	B	各種専門分野で活動している女性を人材リストに登録し、庁内へ女性の人材リストを周知したが、利用の依頼が少なく、女性の登用を促進することができなかった。	周知・促進 実施	周知・促進 充実	周知・促進 充実
	統計調査員確保対策事業	企画政策課	・新規登録調査員63名 ・学習会(5月)	①⑦	A	令和7年国勢調査をきっかけに、例年より多くの登録調査員を確保することができた。	統計調査員希望者数 142人	統計調査員希望者数 160人	統計調査員希望者数 233人
	生涯現役応援体制構築事業	高齢福祉課	・ポスター等でサポーター募集の周知を行った。	①	D	募集をかけたが、希望者がおらずサポーター数が0になってしまったため。	サポーター数 2人	サポーター数 3人	サポーター数 0人
	生涯学習出前講座(市民編)	生涯学習課	・登録数44講座 ・延べ実施回数 11回 ・延べ利用者数 332人	①②⑤	B	昨年度に比べ申込者が減少した。 団体の繁忙期のため申込時に講師側の都合が悪く依頼を断ることがあった等が原因と考えられる。	利用件数 3件	利用件数 13件	利用件数 11件